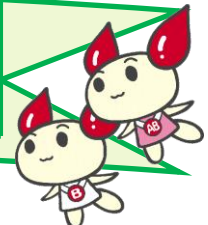


献血いただく前にご確認ください



1. 献血カードのご確認

献血カードをお持ちの方は、カードに印字された次回献血可能日をご確認ください。



2. 献血をご遠慮いただく場合についてのご確認

次の項目に該当される方は献血をご遠慮願います。(その他、医師の判断によりご遠慮いただく場合があります。)



①体調が悪い方



②当日飲酒されている方



③3日以内に出血を伴う
歯科治療(抜歯、歯石
除去等)を受けた方



④激しい嘔吐・下痢の方
(1か月以内に発熱を伴う
下痢があった方も含む)



⑤6か月以内にピアス・刺青をした方

※ピアスはピアッサーや医療機関で
あけた方は1か月経過後に献血可能。



⑥海外から帰国(入国)して
4週間以内の方

※滞在期間は問いません。



⑦現在妊娠中、または出産後
1年以内の授乳中の方



⑧1980年～1996年
の間にイギリスに31日
以上滞在した方

※その他、海外に長期滞在した
方は滞在国内により一定期間献
血できない場合があります。

⑨今までに大きな病気をした方

※原則としてB型肝炎、がん、血液疾患、心臓病、脳卒中、てんかん等。
ただし、治療後一定期間経過後に献血可能な場合があります。

⑩切り傷やひっかき傷等の外傷のある方

⑪今までに輸血(自己血を除く)や臓器移植を受けた方

⑫ヒト由来プラセンタ(胎盤)注射薬を使用したことがある方

⑬梅毒、C型肝炎、マラリアにかかったことがある方

⑭エイズ検査が目的の方

⑯6か月以内に次のいずれかに該当する方

- ・不特定の異性または新たな異性との性的接触があった方
- ・男性同士での性的接触があった方
- ・出産、流産があった方
- ・開胸、開腹、開頭等大手術を受けた方

⑰体重50キロ未満の方



⑱口内炎のある方

特に…

十分な睡眠と食事※を取ってからご協力いただきますようお願いいたします。

※2食続けて食事を抜かれた場合や極度に空腹状態にある場合は、献血をご遠慮いただく場合があります。

3. 薬の服用と献血できない期間についてのご確認

お薬には、種類や服用期間によって献血できる場合があります。献血の際には、お薬またはお薬手帳をお持ちください。下記には主なお薬を示しています。詳しくは検診医師または受付職員にお尋ね下さい。

(1) 当日服用していても献血できるお薬 (ただし献血者の健康状態を考慮し、献血できない場合もある)

- ・ビタミン薬 (貧血治療薬、ビタミンKを除く)
- ・ミネラル薬 (貧血治療薬を除く)
- ・漢方薬 (肝疾患、感冒、喘息等のために服薬している場合を除く)
- ・抗アレルギー薬 (セレスタミンの服用等一部献血できない場合がある)
市販の花粉症・アレルギー性鼻炎薬、アレグラ、アレロック、ジルテック等は献血可能
- ・高脂血症治療薬 (エパデール、ロトリガ等を除く)
- ・胃腸薬 (感染性下痢症のある場合を除く)
- ・低用量ピル (女性ホルモン)
- ・降圧剤 (血圧が安定していれば複数剤の服用でも献血可能)
- ・下剤・市販緩下剤
- ・痛風治療薬 (コルヒチン等一部献血できない場合がある)



不明な点がございましたら、
お気軽にお尋ねください！

(2) 前日までの服用であれば献血できるお薬

- ・風邪薬
- ・鎮痛消炎剤 (症状がない場合や予防的服用に限る)
- ・市販解熱鎮痛薬 (アスピリン、バファリン、ロキソニン、PL 顆粒等)
- ・睡眠薬、抗不安剤、安定剤
- ・消炎酵素剤 (ターゼン、ノイチーム、レフトーゼ等)

(3) 服用中止から3日以上経過していれば献血できるお薬

- ・抗生剤
- ・抗ウイルス薬
- ・止痢薬 (アドソルビン、タンアンルビン、トランコリン、フェベロリンA、ロペミン等)
- ・ステロイド系抗アレルギー薬 (セレスタミン、アプシラジン等)
- ・痛風発作薬 (コルヒチン)
- ・喘息治療薬 (発作時の β 2刺激薬、キサンチン誘導体等)
- ・抗精神剤 (抗不安剤、安定剤を除く)

(4) その他

- ・原疾患に関する薬 (糖尿病治療薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、抗血栓薬、抗腫瘍薬、他) 【献血不可】
- ・チガソン (乾癬治療薬) 【献血不可】
- ・ラエンネック、メルスモン (ヒト由来プラセンタ) 【献血不可】
- ・プロペシア、プロスカール 【1カ月献血不可】
- ・アポダート、アポルプ 【6カ月献血不可】

※その他にも皆様の健康状態を医師が総合的に判断し、献血をご遠慮いただく場合があります。

※予防注射も種類によって献血できない期間が異なります。

(インフルエンザワクチンは24時間経過後献血可能)。

